薬学生・薬剤師向け情報誌［ミル］
MISSION IN LIFE
MIL
any creative Winter 2010
Vol.38

スペシャルインタビュー
医学博士・医学ジャーナリスト
植田美津恵

学長・学部長に聞く㉖
塩見浩人
福山大学 薬学部長

薬学共用試験のCBT合格対策⑤

80
日本郵便
NIPPON

野口英世（日本, 1999年）

Special
改正薬事法施行から半年！
保険薬局、ドラッグストアの展望

薬学生・薬剤師向け情報誌――［ミル］
MISSION IN LIFE
MIL
any creative Winter 2010

■今号の表紙
野口英世（1876～1928年）の[illegible]（日本, 1999年）

CONTENTS

06 スペシャルインタビュー
医学博士・医学ジャーナリスト
植田美津恵

09 ［特集］
改正薬事法施行から半年！
保険薬局、ドラッグストアの展望

18 学長・学部長に聞く㉖
塩見浩人
福山大学 薬学部長

22 よくわかる！ 医薬品業界の動き ⑫
薬価ってな～に？

26 古今東西 毒にもなる薬 ②
ネオフィスト研究所 城戸真由美 吉岡ゆうこ

30 好奇心が原動力！
薬学・薬剤師を知る旅 カナダ体験レポート ⑤ 五味さやか

33 薬学共用試験のCBT合格対策 第5回

05 エッセイ 薬局見聞録⑤ 佐谷圭一
16 エッセイ 名前で親しむ薬の世界⑤
17 社会にやさしい企業⑤
21 肖像画 Vol.21 池原良一 野村證券株式会社
29 広がる！ 薬剤師のステージ⑳ 医薬品卸
35 TOPICS
41 世界へ飛びだそう 薬剤師として、国際協力を志す④
42 薬学生のためのBOOK GUIDE／先人と薬の話⑤
43 ハーブよもやまばなし⑤
おくすりキャラクター図鑑⑤
44 読者プレゼント
45 MIL READER'S SQUARE

MIL Special interview

医療人として、本気で人のために役立ちたいというスピリッツを持った薬剤師の登場に期待する

いま、わが国において、とくに予防医療と高齢者になってからのQOL（生活の質）向上のためのサポートに対する期待が高まっている。これまでの医療制度や社会保障制度が通用しなくなるだろう超高齢社会に向かい始めたからだ。加えて少子化、医療費の逼迫といった要因が、よりこの傾向を顕著にしている。これに対応していくにはそれに関わるレベルの高い職能人の存在が求められる。その期待に応えようと、こうしたエキスパートの養成に取り組み注目されているのが、2009年4月、東京・新宿に開校した「首都医校」である。看護師経験もあり医学ジャーナリストでもある同校の植田美津恵副校長に、医療界における薬剤師への期待と印象について聞いた。

――医療・福祉分野におけるエキスパートの養成専門学校である「首都医校」が注目されています。その背景についてどうお考えですか？

高齢社会になることと併せて、これまでのあり様の医療を取り巻く環境がひじょうに厳しいものになってきています。そうしたなか、とくに予防とか健康をベースにした生活を維持していくことの必要性が高まってきました。これをきちんと実現させていくためには医療・福祉分野におけるチーム医療が求められています。そのための専門職、もしくはエキスパートが存在することで、質の高い医療・福祉の実現が可能になり、だれもが安心して暮らせる社会が作られていくのではないでしょうか。そうした観点から「首都医校」では、臨床、看護、医療情報、療法、スポーツ、東洋医療、福祉までをカバーし、国が認めた専門家を養成する幅広い学科を網羅して開校しました。

――輩出する専門家にはこれから医療・福祉分野で果敢に活躍されていくことを大いに期待したいと思いますが、翻って、医療の中の薬剤師についてどんなイメージをお持ちですか。

私自身は看護師として働いていましたので、患者さんに一番近いところからのスタートでした。これは私にとっての宝物みたいなものです。そうした看護師の立場から医師、薬剤師、臨床検査技師などを見るとき、最も患者さんの近くにいて接することの多いのが看護師で、最も患者さんから遠いところにいるのが薬剤師というイメージです。私はかつて会社を経営していたときに国家資格を持った医療職だけのコールセンターを作り人材を募集したのですが、他職種に比べて参加に消極的だったのが薬剤師でした。そもそも「薬の相談をしたいから薬剤師さんをお願いします」と皆さんおっしゃらないんですね。それはそうですね。患者さんというのは、病気を取り巻くあらゆる面から相談してきますから、私たちが縦割りで「さあ、いらっしゃい」と構えていても患者さんにとって職能は関係ないわけです。薬剤師はどうもそういう点において対応できないことが多いようです。「薬のことは分かるけれど、その他のことはちょっと…」と、初めからそうやってバリアを張ってしまう傾向もあります。薬剤師の高いインテリジェンスは認めますが、もっと医療現場の本質を理解した取り組みをしてほしいと思いますね。これからの医療を考えると、このような状況は薬剤師にとって危機的なものだと思いますが、薬剤師の危機感は、まだ薄いのではないでしょうか。

首都医校 副校長
医学ジャーナリスト
植田美津恵（江）

■プロフィール
うえだ・みつえ
医学ジャーナリスト、医学博士、学校法人専門学校首都医校 副校長、愛知医科大学医学部客員研究員。
教壇に立つほか、テレビコメンテーター、講演活動をこなす。
専門は、公衆衛生学・医療安全・心理学・医療制度など幅広い。
医学博士（愛知医大）、社会科学修士（東洋英和女学院大学大学院）、看護師、保健師。
日本未病システム学会評議員、日本思春期学会理事。著書多数。